

■部会名：環境・文化部会

■部会長（有識者委員）：押谷 一 委員

■市民委員：草野 靖広 委員、齊藤 良枝 委員、高儀 武志 委員、内藤 祐貴 委員、
中野 和代 委員、野戸谷 睦 委員、山田 明美 委員

■概要

1 全体の進め方と提言書（たたき台）部会長報告について

[作業中の主な意見]

押谷部会長：全体会議の前に、環境・文化部会としてのこれまでの意見をまとめるため、私の方で提言書のたたき台をつくった。今日で提言書をまとめたところであるが、他の部会は1つの部会を除いて、もう一度部会を開催して提言書をまとめるとのことであり、場合によっては追加の開催となる。本日は、この提言書のたたき台とマトリックスの表を見ながら進めていきたい。

環境・文化部会の提言書をまとめるにあたって、はじめに「部会長報告」という部分がある。私の名前が記載してあるが、皆さんと共に考えたい内容である。まず、戦略テーマについて、『環境と共生し、エネルギーの地産地消をめざすまちづくり』、『文化のあるまちづくり』、『スポーツ振興による健康なまちづくり』、そして他の部会に属さないものとして『効率的な行政サービスを推進するまちづくり』の4つで良いか確認したい。

○ 今さらの話であるが、この部会以外の部会の資料を読んでみて、落ちていると思われるのが「教育」ではないか。世間でいじめや学力の問題、また大阪市での教育委員会の組織自体のあり方などが言われているが、環境・文化部会が該当するかどうかは分からないが、この部分について触れている部会がなかったので、触れても良いのではないかと思う。マトリックスの資料で未分類となっている意見の中で、「児童・生徒の学力向上を目指すまち」という意見があったので、盛り込むべきだったと思う。

押谷部会長：学力の向上については、この環境・文化部会の内容と直接関わるものではないように思う。

○ ここの部会である必要はないかもしれないが、市民会議全体としてこの部分に触れなくてよいものなのか。それともあえて触れないとするのか。

⇒ 事務局：「教育」に関しては、子育てを所管している暮らし・定住部会で検討している。前回の暮らし・定住部会では、『文教のまち』という戦略テーマを考えており、例えば、小中高大の学校の連携や、教育特区などによる魅力的な学校づくり、小学校での英語教育の充実、高校生の大学の授業への参加などについて検討している。

○ 学力の向上については、家庭の経済状況によって左右される面が大きい。全国的に、

家庭の経済状況が良いと学力が高い傾向にある。市民レベルで何かできる問題ではないと思う。

- 個人の部分に任せなければならない面もあるが、どうしてこの問題が出ているかという背景に、道内の市レベルで比較した場合に地域によっての格差が出ているのではないかということである。小学校・中学校は行政サービス、義務教育であるので、この格差を均していくことが必要ではないか。そのため、今回の会議でまったく関係ないという態度をとることができないと思う。

押谷部会長：教育の問題は、現行の総合計画の中にも「子どもの可能性を伸ばす教育の充実」ということで入っており、この部会で入れるかどうかも含めて、この問題については後で議論を行うこととし、先に進めたい。

2 提言書（たたき台）まちづくり政策提言について

押谷部会長：マトリックスにあった意見について、短期、中期、長期の部分と、それぞれハード、ソフト、ハートづくりという分類で分けてある。漏れている意見等はないだろうか。

- 庁舎の建替えというのは、具体的な議論の中であったであろうか。これを重点に話した記憶がないのだが。

- 公共施設の中には庁舎も含まれるかもしれないが、財政状況が厳しい中で、選択と集中の観点から取り組んで行こうとするならば、ここに庁舎建替えの記載があると、建替えを積極的に進めていこうということになってしまう。

押谷部会長：環境・文化部会としては、文化施設やスポーツ施設を重点的に考えていこうということになるので、長期のハードにある4番目の「市庁舎の建替えの検討」という意見は、削ることにする。

- 前回の体育館の建替えの話について、莫大な予算がかかるという話はよく分かるが、他の部分で箱物の建設の提案についての意見は見当たらないし、建てられてから40年も経っており、老朽化している。この老朽化に対して、現在使えるから良いということでは困る。今すぐではなくても、建替えることを目指していただきたい。「文化施設・スポーツ施設の充実」や施設の手入れというだけでなく、大麻体育館の屋根が落ちたという話もあったので、近い将来必ず建替えることを提言に入れても良いのではないか。

押谷部会長：施設の整備計画は、市の方ではどのようになっているのか。施設や設備については、何十年という長い視点で計画しているのではないか。

⇒ 事務局：当面、今の公共施設をいかに長寿命化していくということと、体育館や学校は災害時の避難所になるので、耐震化の対策を最優先に考えている。その必要性に応じて、大規模修繕なのか、それとも大規模修繕でも耐震化率が上がらないということであれば、建替えて対応するのかという方向で検討している。市内の4つの体育館については、耐震化の調査をした上で、次の計画で検討していく。

- 現時点で今のような方向性があるのであれば、建替えについて提言に入れなくても良いのではないかと。
- 市で計画しているから、市民会議で提言しなくて良いという話ではないと思う。
- 市庁舎の話も同様であるが、しかるべき時に新しい建物が必要となる段階において、それなりの適正な評価の下で建替えるというのであれば、それで良いのではないかと。また、スポーツ施設だけを建替えてほしいという話ではないのではないかと。広い意味で公共施設ということであれば、盛り込むことも可能であると思う。耐震化の話については、安全・安心部会で存分に話し合われているので、あえて取り上げる必要はないのではないかと。
- そうかもしれないが、市民会議の提言が市民の意志を重視するというのであれば、要望がなかったというよりも要望があったとしてほしい。
- 環境・文化部会として、これを提言するかどうかという話であると思う。ここにあるまちづくり政策提言の内容を見ても、すごくお金のかかるわがままなことばかり記載されている。要望なので、何を言っても良いし、何を考えても良いと思うが、取り入れて良い部分とそうではない部分を分けて考えるべきではないかと。耐震化等についてきちんと検討している部会があるのであれば、あえてこの部会で取り上げる必要はないのではないかと。
- 市の計画の中に遠い将来に建替えがあるから、ここで提言しなくて良いということではないと思う。
- 古いものを建替えようという観点だけではなく、耐震化という観点からも優先順位を付けていこうとしている話があるので、何も矛盾していないし、むしろその方が適正であると思う。箱物の建設については、市民の誰もが関心のあることで、あえてここで言わなくても、崩落寸前の建物をそのまま放置しておくことにはならないと思う。自然な原理として進んでいくことはあえて提言に入れる必要はないのではないかと。
- 体育館だけの話ではないと思う。スポーツは屋外競技もあるので、建物だけの話にはならないと思う。

押谷部会長：市の方としても、耐震性の調査等を具体的に行なって、どのように整備していこうかということを検討しているので、ここであえてスポーツ施設を建替えてほしいと言ってしまうと、文化施設ももっと整備してほしいということになってしまう。

- 提言として出すのと、計画があるから出さないのとでは意味合いが違うと思う。
- 環境・文化部会として、建替えの提言を打ち出していくのは違うのではないかと。
- 戦略テーマ『スポーツ振興による健康なまちづくり』の中期のハードの中に「スポーツ振興のために施設整備に対する市民の要望を調査する」や、長期のハードの中に「スポーツ施設の設備を充実する」ということが記載されている。この内容で、今の話は網羅されているのではないかと。

押谷部会長：話が「戦略テーマ提言」に移ったが、マトリックスを整理しながら、際立つ

て意見が多かったもの等を整理したのが「まちづくり政策提言」の表であり、「戦略テーマ提言」については、具体的な方向性として別にまとめている。

○ 提言のまとめ方について、「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」とを分けて記載してあるが、双方がリンクしていなくても良いものなのか。

押谷部会長：重複している部分もあるので、各部会の部会長で一度集まって、他の部会の内容とも調整しなければならない。「まちづくり政策提言」は、ここに記載してある通り「環境・文化分野におけるまちづくり全体の方向性」ということで記載してある。「戦略テーマ提言」の4つについては、「どんな状態にしたいのか」やその「立案背景」や「立案に関するデータ」、そして、具体的な「戦略テーマ実現への方策」を記載してある。

○ 「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」というものを、あえて分けている意味付けがないのではないのか。全体の内容をはじめの方に記載して、具体的な内容を戦略として後に記載してあると思う。そうであれば、どこの部分を戦略に持ってきたのか、対応表か何かで前者と後者が対応しているということを見えるようにしたら良いのではないのか。

押谷部会長：他の部会ではどうか。

⇒ 事務局：他の部会でも少しあったが、基本的には、「まちづくり政策提言」は皆さんに整理していただいたマトリックスを分類したもので、部会長がおっしゃっていたまちづくりの全体の方向性ということにしてある。また、「戦略テーマ提言」については、「まちづくり政策提言」の中から選択と集中の観点でさらに力を入れていくものは何かということでもまとめていただいている。よって、「まちづくり政策提言」に入っているものがすべて「戦略テーマ提言」に入っているという訳ではない。

○ それであれば、余計に話がおかしくなる。マトリックスから取捨選択して「戦略」にするということであれば、「まちづくり政策提言」自体に全部のマトリックスの内容が入っていないとおかしいのではないのか。

⇒ 事務局：基本的に、マトリックスに入っているものはすべて「まちづくり政策提言」に入っている。

○ 市民会議の最終段階として提言書を提出するにあたり、これを読む側としては「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」の違いが出るとどういう意味なのかということにならないか。「まちづくり政策提言」に出ている意見について、特にこの部分が「戦略テーマ提言」として特別に取り上げているというようにすべきではないだろうか。別々に記載する意味は何なのか。

押谷部会長：マトリックスは、皆さんのご意見をいただいてつくったものである。それを部会で集約すると、「まちづくり政策提言」という形になる。その中で具体的に何に力を入れて提言するかということになると「戦略テーマ提言」になる。

⇒ 事務局：「まちづくり政策提言」は、参加している委員の皆さんからたくさんの意見をいただいているので、それらを「まちづくり政策提言」という全体の方向性としてできるだけ載せたいということで整理してある。この部会として検討していただいたことは、「戦略テーマ提言」としてより具体的にどの部分に力を入れていったら良いかということ、**「実現への方策」という文章化した形で部会長にまとめていただいている。**今の「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」との突合が必要であれば、「まちづくり政策提言」の中の意見に、例えば下線を引くなどの対応を検討したい。「まちづくり政策提言」を「戦略テーマ提言」のような分類にしまうと、入らない意見が出てくるので上手く体系づけられなくなってしまうため、全体を網羅した形の「まちづくり政策提言」という形で今回は整理してある。

押谷部会長：マトリックスは、今まで出てきたたくさんの意見をまとめたものであり、それを4つの戦略テーマに分けようということで、前回議論したところである。戦略テーマの内容は、短期、中期、長期という中で、より具体的な内容で記載してある。「まちづくり政策提言」の中から、資料のマトリックスについても戦略テーマ別に分けてある。戦略テーマの内容によっては、ソフトやハードづくりの部分に意見が何も入っていないところもある。

○ 全体会議の際に、取り上げてほしい意見について○印を付けて投票したことがあり、その数をマトリックスの意見の中に○数字で記載してあるようであるが、○印のなかった意見もこの「まちづくり政策提言」中に入っているということなのか。

〔⇒ 事務局：基本的には、すべて記載してある。〕

○ 全部の意見を記載する必要性はあるのだろうか。

押谷部会長：前回の部会の時に、全体会議でいろいろな意見があつて、この部会として必要な意見はどれで、取り上げるべきではない意見はどれかという確認をしている。他の部会から言われて嫌々入れた意見は、これまでなかったと思う。

○ この話は単純に、「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」という2部構成のリンクをどうするかということである。この部会で集中的に取り上げた内容が、「まちづくり政策提言」全体の中のどこの部分なのかを明確にした方が良いのではないかと思う。先ほどあった、線を引くということでも良いのではないか。「まちづくり政策提言」という全体的に網羅されたものから、「戦略テーマ提言」へ選択したものがどれかということを見えるような形にしたら良いと思う。提出する文書として、前半と後半がどういう繋がりになっているかが分からないと意味がないのではないか。

押谷部会長：基本的には、4つの戦略テーマへ分けた時に、「まちづくり政策提言」から漏れたものはないと思う。

○ 部会の話し合いでは、時間的な制約もあったかもしれないが、テーマを絞って話し合っており、網羅的に話し合った訳ではないと思う。

押谷部会長：これまでの会議で、全体を見渡してマトリックスに入れた方が良い意見、あ

るいは外した方が良い意見については、その場で言うていただいて反映していくということで進めてきたところである。

- そんなに難しく考える必要はないのではないか。この中で、我々が重要だと思っている柱の部分は分かっているし、戦略テーマの中で詳しく記載してある。
- 会議に出ている人だけが分かれば良いということを行っているのではなく、この提言書を見た一般の人にも、「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」がリンクしているということについて見えた方が良くということを行っているのだと思う。
- 一般の人たちにも分かるようになれば良いと思う。「まちづくり政策提言」という中でも、4つの戦略テーマに沿って議論したことが分かる方が良いのではないか。
- 提言書の中に、対応表を1枚入れたら良いのではないか。

⇒ 事務局：「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」のリンクの仕方については、部会長が集まる会議の中で検討させていただきたい。

- 「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」が、どういう意味合いで二つに分かれているのかという説明もつけてほしい。

⇒ 事務局：「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」の意味については、説明をつける必要があると考えている。現在、部会ごとに提言書をまとめる作業を行なっているが、それぞれの部会で視点は違っても内容の重なっている部分があるので、市民会議全体としてその部分を束ねて見える形にしていく必要がある。部会としての報告はそれぞれあるのだが、全部会長との打ち合わせの中で、「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」の違いやどういう位置づけにしてあるかということも含めて、部会別の報告とは別に市民会議全体が見えるようなものをつくる必要があると考えている。

また、部会長にまとめていただいた「戦略テーマ実現への方策」については、幅広い視点で今回まとめていただいているが、今後の議論の中で必要なものとそうでないものが出てくるかもしれないと考えている。

押谷部会長：リンクの部分は、想定していなかったもので、他の部会とも調整させていただきたい。次に、本日の本題の戦略テーマの部分へ入らせていただきたいのだが、戦略テーマの4本の柱について、1つ目は『環境と共生し、エネルギーの地産地消をめざすまちづくり』、2つ目は『文化のあるまちづくり』、そして3つ目は『スポーツ振興による健康なまちづくり』、それから4つ目に『効率的な行政サービスを推進するまちづくり』としている。

「戦略テーマ提言」の構成としては、4つのテーマごとに「どんな状態にしたいのか」と「立案背景」があり、私の方で文章化し、「立案に関するデータ」については、市でここに関わるデータを整理してもらった。また、「戦略テーマ実現への方策」はマトリックスのものを文章化して整理してあるが記載しきれない部分もある。例えば、『スポーツ振興による健康なまちづくり』では、「戦略テーマ実現への方策」の中で「ハートづくり」の部分にマトリック

スで一つも意見が出てきていないので、このままの空白の状態が良いのかについてもご意見をいただきたい。では、最初から順番に見ていきたい。

- 1つ目の戦略テーマの「環境」という言葉は、いろいろな使い方があり、意味合いが相当広いので、最初の方にひと言定義をしておかなければならないのではないか。

押谷部会長：確かに「子育て環境」というような言葉もあるが、「どんな状態にしたいのか」という部分に、それぞれの言葉の定義をある程度記載してあるが、表現を少し変えることにする。

- 「戦略テーマ実現への方策」の中で文章が空いている部分は、必ず入れなければならないものなのだろうか。

押谷部会長：マトリックスでも意見がない部分もあるので、必ずしも埋めなければならないものではない。もう一度部会を開催して、抜けているものやそうでないものを次回の部会までに各自検討しておいていただきたい。

- 前回の話で出てきたことだが、市民会議として、市民から良い文言はいろいろと出ているが、その反面、何の目標もないとなると強制力がないように思う。具体の数値目標は、専門家に任せるとしても、「何らかの数値目標を掲げること」を内容として盛り込まなければ提言としては弱く、具体性がないのではないか。

押谷部会長：具体の数値目標を掲げること、この場では無理であるが、データを参考にしながら数値目標を掲げてくださうということ是可以する。この辺りも次回までに各自ご検討いただきたい。

- この提言書の中に、戦略テーマとして表題設定を絞り込んだ理由があると分かりやすいのではないかと思う。また、次回までに各自検討とのことだが、この提言書にさらに皆の意見を盛り込むと、逆にまちづくり政策提言や元の作業中の付箋の状態に戻ってしまう。この戦略の部分はどう具体的な文章にしていくかということが大事で、意見をさらに盛り込んでいくことにはならないと思う。

- この提言書の文章を具体的な文言も含めて見直してくるということで良いのではないか。

押谷部会長：次回、もう一度部会を開催し、文章を一つひとつ修正していくことにしたい。

—各委員了解—